令和４年度　　自己評価総括表　　伊丹市立神津こども園

教育・保育目標	心身ともに健やかでいきいきと生活する子どもの育成
重点目標	・基本的な生活習慣を身につけ、いきいきとした心身の健康づくりに取り組む。 ・気づき、考え、行動しようとする資質・能力を育む子ども主体の教育・保育を実践する。 ・共に生きていく中で、互いのよさやちがいを認め合える仲間づくりを推進する。 ・保育者の資質向上をめざし、チームとして連携を図りながら一人一人が明確な目的をもって教育・保育に取り組むよう努める。 ・地域、小学校、家庭との連携や接続を深め、開かれた信頼される園づくりに努める。

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価	学校関係者評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自尊感情の構築	・「生きる力」の土台となる子どもの自尊感情を育むための職員の関わり方につて６月、10月、２月に話し合いの機会を設ける。(少人数グループ、事例研究)	・計画通り実行した。様々な職員が子どもの姿を多角的に捉えることができ、子どもの自尊感情を構築するための保育者の関わり方について学び合うことができた。保護者アンケートにおいて、保育者の関わりについての項目は、肯定的な回答が 95%以上の結果となっている。来年度も子どもの自尊感情を育むための取り組みを続けていきたい。	・今後も子どもたちの自尊感情を育む温かな関わりを努められたい。
	健やかな体の育成	・調理の職員が旬の食材に関する掲示を作成し、５歳児の子どもに向けて話をする機会を年４回持つ。季節を感じられる旬の食材を利用した給食メニューを月３回は入れる。 ・栽培し収穫物を使ったクッキングを年４回以上行う。 ・食育だよりやホームページを年６回以上発信し保護者へ啓発する。 ・園庭や屋上園庭、遊戯室、小学校校庭、河川敷など様々な場を多く活用し子どもが積極的に体を動かす機会をもつ。 ・子ども皆が、毎日５分でも集中して体を動かす機会をもつ。	・計画通り行えた。掲示だけでなく食材の実物を五感を使って知る機会をもった。また、掲示物は玄関に置くことで、保護者への啓発につながるよう工夫した。 ・収穫物を使ったクッキングを年１０回以上行った。アンケートでの食育に関する項目では肯定的な回答が 94%以上という高い結果となった。苦手とする食材も、収穫したものであると食べられる子どもの姿があった。 ・計画通り実行できた。次年度は給食の新メニュー、クッキングなどに焦点を当てた内容に偏よらないように、栽培活動での取り組みについての内容も充実させていきたい。 ・園内外の恵まれた広い空間を利用して積極的に体を動かすことができた。 ・戸外でかけっこや固定遊具などをして体を動かす遊びに誘うことを意識してきたが、毎日約５分集中して体を動かすことは難しかった。健やかな体作りに繋がるような遊びについて今以上に学年や全体で検討したり、年間を通してどのような活動を取り入れていくか計画したりしていくことが今後の課題である。	・職員同士が連携を図りながら安全面に配慮して、子ども達の活動を支えていることがわかる。 ・年齢にふさわしい取り組み方を検討されたい。
	資質・能力を育む保育の推進	・子ども一人一人の資質・能力の育ちを捉えるため、写真を用いて月３回以上職員間で子どもの姿を語り合い共有する。 ・資質・能力を育む行事の持ち方について話し合いをして見直していく。	・達成目標にある話し合いの回数は乳児・幼児共に達成することができた。子どもの姿を読み取ることで、資質・能力の観点から職員間の共通理解を深めることができた。今後も資質能力の観点から子ども一人一人の理解を深め、子どもの探求心（幼児においては継続的な探求）を育む保育環境の再構成に取り組んでいきたい。 ・保護者アンケートの「こども園はお子さんの資質・能力を育む教育・保育の場としての環境を整えていますか。」の項目おいて、肯定的な回答が乳児は全体で 95%以上の結果を得られた。 ・大きくなった Ｄａｙや参観日の持ち方など、職員間で話し合い資質・能力を育める内容に見直した。結果、子ども自身が探求心を持って遊んだり、友達同士で考えを出し合ったりして、新しい工夫を見出す姿が増えている。	・保育教諭が子どもの姿をよく見て、理解し、そこから保育を広げられていることがわかる。今後も資質・能力を育むための保育の工夫に努められたい。
	ちがいを認め合える仲間づくり	・０～３歳児は遊んでいる子どもの姿の写真を月に１度は掲示し、他児のことを子どもが知るきっかけとなるようにする。 ・４・５歳児はクラスの中で経験したことや思いを発言したり聞いたりする対話の場を持ち、週に１回は全員にスポットがあたるようにする。 ・乳児は年３回遊びの写真の掲示をする。幼児は子ども一人一人の興味を捉えたクラスだよりを年に２回発行することを通して、様々な子どもの育ちを保護者が肯定的に捉えられるようにする。	・０～３歳児は月に１回という回数は達成できなかった。掲示した時の子どもの反応から、互いの存在を認識し、子ども同士を繋ぐものになっていると感じた。回数や方法を検討していきたい。 ・４、５歳児は年間を通して行ってきたことにより、自分の言葉で伝えることに意欲的な子どもが増えてきた。また、保育者も子ども達が様々な意見や考えをもっていることに気づく機会となっている。現在は遊びについてのことが多いが、今後は対話の話題についても検討して行っていきたい。 ・保護者アンケートの「保護者の方は、自分のお子さんだけでなく、周りのお子さんの成長も感じることがありますか。」という項目で 93%以上があてはまるという結果であった。次年度も様々な子どもの育ちを肯定的に捉えられるような取り組みを続けていきたい。	・在園する子ども達の年齢の幅が大きいため、保育教諭はその発達に配慮する点が多いと思うが、引き続き、ちがいを認め合える仲間づくりを進められたい。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	・具体的な遊びの実践力向上を図る園内研修を年２回行う。 ・講師を招聘した園内研修公開保育を年１回行う。 ・『子ども一人一人の興味・関心が深まる保育の在り方～チームでの学び合いや語り合いを通して～』について学び、チーム一丸となり教育保育の更なる充実につなげていく。	・講師を招いてカプラとボードゲームの遊びの研修、職員内でのリズムの研修を行い学びあった。子どもの遊びの幅が増えたと共に、保育者の知識が広がった。 ・子どもの発信を待つだけでなく保育者側の意図的な関わりの必要性を改めて学んだ。また、より子どもの探求心を育む保育について見直すことができた。また、他園・所の公開保育にも参加し、主に保育環境について学び保育に反映することができた。 ・クラスで定期的にクラス全員の子ども一人一人について語り合った。どの子どもも見逃さずに捉え、子ども理解を深めると共に、クラスの職員間の同僚性を築くことに繋がった。しかし、環境構成に活かせていない部分があるため、そのための時間の確保が課題である。５歳児クラスは一人担任であったが、継続した少人数のグループ活動においては、他クラスの協力も得ながら複数の保育者が活動にあたった。複数の保育者が捉えた子どもの発想力、思考力、友達と関わる力の具体例の共有を行った。保育者が連携し語り合うことが保育者の資質向上に繋がると共に、子どものより良い育ちに繋がっている。	・今後も保育者の資質向上に努められたい。

	チーム保育の推進	・互いのよさや感謝を伝え合う機会を年３回（４月・９月・１月）設ける。（４月はクラス、９月は乳児幼児、１月は全体で行う。） ・環境マイスターが中心となりそれぞれの環境の工夫を認め合う場を年３回もつ。 ・クラスを越えて子どもの姿を伝え合いながら環境構成を行う。	・職員間に目を向けて話をする機会がないため、あえて作ることにより違った視点からコミュニケーションを取ることができた。次年度は最終回に教職員アンケートを元に、１年間を振り返りながら、互いの考えを伝え合う場を作りたい。 ・今年度は年２回しかできなかった。次年度からは、話し合う時期を事前に決めておくようにする。また、認め合う場としてだけでなく、環境について伝え合う場とすると共に会の持ち方の工夫を課題とする。 ・乳児は環境や生活面での現状の課題に対しての意見を出し合い、乳児全体で環境構成を行った。幼児は今年度クラス単位での話し合いに主をおいたため、棟や他学年とは、必要に応じてという形になった。棟ごとに環境構成の時間を持てたことは有効であった。今後も職員それぞれが互いの保育を理解しようとする気持ちや、助け合う気持ちを持つことを大切にしていきたい。	・クラスでの子どもの姿の共有に重きをおいて取り組まれてきたことを評価する。今後もチーム保育の推進に努められたい。
開かれた・信頼される園づくり	小学校教育との接続	・小学校教諭と年４回以上話し合う機会をもち、子どもの姿を伝えたり、資質・能力の育ちや１０の姿の観点を伝えたりする。 ・給食交流、授業見学、業間交流、プールを借りるなど子どもが小学校を身近に感じる場をもつ。	・回数は達成できなかったが、研究授業や園内研修で互いの取り組みを知る機会を持つことができた。また、間接的ではあるが園内研修資料を配布して感想をいただくなど資質・能力の育ちや１０の姿の観点を伝えるように心がけた。園の多数の保育者が小学校の研究会に参加をしたり、様々な保幼小接続の研修会に積極的に参加したりすることで、発達の連続性を捉えた教育・保育の在り方や接続の大切さを学ぶことができた。子どもの交流ではなく、職員間においての接続が今後の課題である。 ・幼児組は小学校校庭で遊んだり、５歳児は授業見学・業間交流など小学生との関わりを持ったりしたことで、小学校の様子を身近に感じる機会となった。（今年度、給食交流はコロナ禍のためできなかった。）今後も小学校と積極的に交流していきたい。	・園で育ってきたことが、小学校において活かされていることを感じる。特に新しいことを考える力や、相手を思いやる優しさが育っていると感じる。今後も、小学校との接続を努められたい。
	地域との連携	・Ｋメゾンときめきとの交流が難しい場合には交流の持ち方を考えて交流を図る。 ・年度当初に職員が地域を巡回し、地域のことを知る。 ・神津交流センター、地域の畑への訪問を年２回以上行う。ひょうたんの栽培、絵付け、もちつき、さつま汁を地域の方と共に行う。 ・来賓の方をこども園に招き、実際に園の様子を見たり教育保育を伝えたりすることでこども園についてより知っていただく機会をもつ。	・コロナウイルス感染防止のため施設外でできる交流をした。地域の施設のことや地域の方の温かさを感じるきっかけとなったため、今後も積極的に交流していきたい。 ・職員が神津地区のことを知るきっかけとなったため引き続き行っていきたい。 ・ほぼ予定通り行えた。地域の方のご協力無くしてはできない活動である。子ども達の豊かな人間性を育むため、今後もより連携を図っていきたい。 ・例年のオープンスクール時に来賓の方を招き、教育・保育を見ていただいた。コロナ後はより多くの地域の方に来ていただけるようにしていきたい。	・祖父母が傍にいる子どもばかりではない。様々な年齢の方との交流は大切である。コロナ前に行っていたことを引き継がれたい。 ・幼い頃の経験は心に残る。地域愛が育まれる活動を今後も推進されたい。
	子育て支援事業	・むっくむっくルームの普段の様子の写真をホームページに載せ、多くの市民に神津のむっくむっくルームの周知を図る。 ・保護者へ向けて子ども理解、子育て向上につながるような講演会を年に１回行う。 ・新たな取り組みとして、乳児クラスでは数日に分けて少人数での参加・参観とその後の交流会を行い、幼児クラスは懇談会の持ち方を変更することで、保護者同士が交流を図りやすくする。 ・全職員が送迎時に（クラスの）保護者に子どもについての話をする。	・普段の様子はホームページに更新できていない。今後、利用者名簿の横に写真掲載許可の有無を書く欄を作り意識的に普段の様子を撮影して発信し、利用者数を増やしたい。 ・瀧川教授より「遊びの中の学び」について講演会をしていただいた。保護者の教育・保育への理解に繋がった。 ・乳児クラスの少人数ずつの参加参観と交流会は保護者にとって、子どもの育ちを感じたり子育てについて相談したりする場として有効であった。幼児クラスでは参観後の懇談会で４～5 人のグループで話す場を持った。また、テーマを決めたことで初めて話す保護者同士でもスムーズに話ができた。次年度も引き続き行っていきたい。 ・「保護者の方は、お子さんのことや子育てのことについて、園の職員と話すことができますか。」において、乳児は 100%、幼児は 91.6%の肯定的な回答を得られた。しかし、もっと話す機会がほしいと感じている保護者もいるため、保護者の思いや状況にあわせて意図的に話す場や時間をより設けていきたい。	・今後も地域や保護者に向けて子育て支援を推進されるとともに、家庭においてもできることの協力を願うことも啓発されるとよいのではないか。
	学校園の積極的な発信	・ホームページを毎日更新する。（長期休みを除く）また、グーグルクラスルームを利用し子どもの姿の写真や活動の過程を発信し、保護者アンケートの「こども園は園だよりやクラスだより、ホームページなどで、教育・保育の内容を積極的に発信していますか。」において、肯定的な回答が８０％以上になる。 ・年２回保護者と共にこども園の環境について考える機会を持つ。（リスクマップ作り、園庭整備）	・ホームページの更新の目標回数は達成した。幼児ではクラスだより、５歳児では継続的な活動の過程をグーグルクラスルームで発信をした。保護者アンケートにおいて肯定的な回答が全体で 94%になった。来年度からは動画も活用するため、ホームページの更新回数やクラスだよりの在り方などについて検討していく。 ・6 月に園内のリスクマップ作り、9 月に園庭整備をＰＴＡ役員や有志の保護者と共に行った。その中で保護者の方から出た気付きを取り入れてリスクマップ検討を行えた。園庭の環境整備では教育・保育についての理解や、保育者との交流の場になった。	・クラスだよりの見やすさや、子どもの遊びの過程を伝えることに工夫をされている。また、ホームページの更新を多くの保育教諭が担っていることを評価する。今後も引き続き積極的に発信されたい。

学校関係者評価総括	コロナ感染対策を実施しながら、子ども達にできる限りの教育・保育をされてきた。また、先生方が子ども達の姿をよく見ておられる。そして、保育を工夫されていることで子ども達が新しいことを考える力が育まれていることを評価する。今後も、園と地域、小学校、様々な人のつながりの中で子ども達が育ち合う保育を推進されたい。
次年度に向けた重点的な改善点	・一人一人の子どもの興味・関心を捉えながら資質・能力を育む継続的な探求活動。 ・チームでの語り合いと環境構成の効率的かつ有効的な方法。 ・コロナ後の、保護者や地域との連携や、小学校との接続の在り方。 ・動画配信を含めた発信の在り方や、教育・保育における ICT の有効的な活用。